福岡教育大学紀要，第39号，第４分冊，135－144（1990）

わが国における運動会の歴史的考察　（三）

－わが国最初の運動会－

平　田　宗　史
（平成元年８月31日）

（一）　はじめに

『学校ことはじめ事典』によると，「運動会には，修学旅行などと並んで日本の学校独特の行事だといってよい。それ自身，1874（明治７）年海軍兵学寮がイギリス海軍士官の指導で導入したアスレチック・スポーツ，『競闘遊戯』に始まるとされている。」[(1)]と，明記されている。ここで重要なことは，二つある。

一つは，運動会は，わが国独特の学校行事だということである。

二つは，それなのに，そのルーツは，明治７年，イギリス海軍士官の指導の下に海軍兵学寮で開催された『競闘遊戯』であるということである。

以上の２点は，定説となっていると見てよいであろう。

しかしながら，わが国最初の運動会といわれる『競闘遊戯』について詳細に検討したものが少ないと思われる。例えば，管見によれば原物のプログラムに基づいて検討したものがない。国立公文書館所蔵の『公文録　海軍省之部　全』の中に和文，英文，各一通のプログラムがある。

本稿では，これらのプログラムと参加者の手記などを通して，『競闘遊戯』の内容および性格を検討することを目的とする。

（二）　海軍兵学寮の教育

明治政府は，1869（明治２）年３月，田中義門を海軍学校御用掛に任用し，また，教官14名を採用し，操練所設立準備に取りかかった。６ヵ月後の９月18日には，東京築地に海軍操練所を開設することに決め，同日，各藩に貢進生の派遣を命じた。１ヵ月後の10月19日，再度督促し，その差し出し期限を11月25日とした。11月27日に，始業式が挙行されたが，貢進生として派遣されたものはわずか９名であったので，翌1870年１月11日，あらためて，始業式が行なわれた。その時，集まった生徒は，46名となった。これで，海軍幹部養成のための教育が開始されたのであるが，基本条例の規則，内則なども作成されてなく，一定したカリキュラムもなく，教育方針も定まっていなかった。[(2)]

日本の海軍教育が本格的に行なわれるようになるのは，1870（明治３）年10月から11月にかけてである。すなわち，10月10日に海軍兵学寮規則・内則が制定（公布は翌４年１月10日）され，10月27日，初代校長に川村純義が就任し，11月４日，海軍操練所を海軍兵学寮と改称する。さらに，海軍兵学寮規則，内則，および就学予定表を提示するなどして，人員整理を行い，181 名の中から14名を精選した。生徒の服装も，11月22日，海軍制服が定められ，羽織ハカマ，草履又は下駄だった生徒が上はジャケット，詰襟，帽子に，下はズボン，靴となった。和装から洋装に一変したのである。[(3)]

このような大改革がなされて，1871（明治４）年１月８日，始業式が行なわれた。翌日から授業が再開されたが，それと同時に，生徒募集が行なわれた。

教官には，日本人ばかりでなく，御雇外国人も採用され，生徒数も多くなり，建物も新しい洋風建築となり，海軍兵学寮は，次第に，整備されてきた。

幼年生徒（15～19才）は予科３年，本科２年で士官登用，壮年生徒（20～25才）は３年で士官となるのであった。新しく募集された生徒を加えて，1871（明治４）の生徒は，幼年生徒157 名，壮年生徒68名となった。

教科書には，英語で書かれたものを使用したりし，規則について行けない生徒が大量にでて，1872（明治５）年中には，あわせて123 名の退寮者を出した。したがって，1873（明治６）年３月の生徒募集からは，13～15才の予科生徒のみを募集することとなった。これは，20才を越えた生徒

で必修科目である英語を学ぶに困難であったことや，若い陶冶性豊かな生徒を集めて，海軍教育を徹底するほうが得策と考えたからであろう。[4]

以上のように，1873年になっても，海軍兵学寮の教育は，試行錯誤の状態である。しかしながら，明治政府は，1870年（明治３）年10月２日に，陸軍はフランス式，海軍はイギリス式にするという決定をしていた。海軍については，イギリス式にするか，オランダ式にするかで揉めたが，伝統も歴史も永く，当時，最強であったイギリス海軍を模範とすることとなった。招聘交渉が始まるのは，その決定から８ヵ月後の1871年６月である。交渉は，スムーズに進展せず，やっとイギリス当局と，最終的な契約書が交わされた。派遣される顧問団のメンバーはアーチボルド・ルシィアス・ドグラス中佐（Archibald Lucius Dougas, 1842－1913）を団長として34名である。彼らは，５月８日にイギリスを発ち，７月27日に横浜に着いた。[5]

ドグラスは，これまでにオランダ式の海軍兵学寮教育をイギリス式に改めることとした。先ず，1870（明治３）年10月27日に定められたオランダ式の海軍兵学寮の規則と内則を改め，1873（明治６）年10月８日，「英国海軍ノ定例ニ従」って，新しくイギリス式の海軍兵学寮の諸規則を告示した。[6]それは，つぎの通りである。

(1)　海軍兵学校寮規則　（６條）
(2)　法令　（６條）
(3)　通則　（７　）
(4)　給與品規則　（４條）

前回の1870（明治３）年比べると，条数が少なく，簡潔になっていることである。すなわち，前回は，規則102 條，内則126 条であったのが，今回は，上掲の通りである。

海軍兵学寮の目的は，「海軍ノ士官タルヘキ者ヲ教育スル」ことであった。新生徒の入寮試験は毎年９月１日より行なわれ，それは，教授職が執行し，英国海軍士官が補助するのであった。入寮を許可する者は，「身体強健艦内ノ職務ニ耐ユ可クシテ年齢十七歳以下タル可」き者であった。定員はなく，「海軍人員必要ノ多少ニ応シテ海軍卿之ヲ定ム」のであった。入寮許可者には『給與品規則』に従って，それぞれの品物を給与されたのである。

兵学頭は，「凡テ寮内ノ全権ヲ任セラルヘシ其ノ命令ハ直ニ服従セサルヘカラス」と，絶対的な権限をもった。「生徒ハ授業時間ノ間許可ヲ得スシテ兵学寮ヨリ出ルヲ許サス」「授業中生徒ハ許可ヲ得スシテ他所ニ到ルヲ許サス」「教官ハ時刻ヲ違ヘサル様ニ己レノ任シタル科業ニ就ク可シ生徒ハ授業ノ始マル時刻ヨリ五分時間ニ講堂或ハ船具操練場或ハ大砲操練所ニ集ル可シ」と生徒の授業に対する態度を厳しく律し，それに違反する生徒は，外出禁足，自室禁錮などの懲罰を科した。さらに授業以外でも，「総テ命令ニ服従シ諸操練ニ於テ駿足敏捷ニ運動ヲ為スヘシ」「服制ニ従テ常ニ正シク着服スヘシ」「兵学寮ノ官員通行スル時生徒ハ必ス立チテ恭礼スヘシ何レノ士官教官ニテモ其ノ室ニ到ルトキハ生徒ハ同様ニ恭礼ス可シ」「　生徒ハ父母病気ノ外下宿帰省ノ許可ナシ」と，生徒の生活を厳しく律してのである。

授業時間は，３期に分けて，期ごとに異なっていた。５月１日より９月１５日までは，次の通りである。

起　床	５時
整　列	６時30分
朝　食	６時40分
授　業	７時30分
休　憩	10時30分
授　業	11時
終業用意	11時45分
午　食	12時
晩　食	６時
整　列	９時
消燈就寝	９時30分
寮直巡視	９時40分

３月より４月までと，９月16日より10月末日までは，次の通りである。

起　床	６時
整　列	７時30分
朝　食	７時40分
授　業	９時30分
休　憩	10時30分
授　業	11時
午　食	12時
授　業	１時
終業用意	２時50分
終　業	３時
晩　食	５時
整　列	７時
消燈就寝	10時
寮直巡視	10時10分

11月より12月までの間は，起床６時30分，整列８時，朝食８時10分，以外は９月16日～10月末日の日程と変らない。

休学日は，天長節，英国女王誕辰，土・日曜日，御祭日，夏月休学（７月15日～８月26日），冬月

休業（12月10日～1月7日），耶蘇更生祭などであった。

以上のような内容の諸規則を制定した後の10月21日，生徒の試験をし，ドーグラスらの意見を聞き，適性を判断，教官会議を開き，129名の専攻を決めた。[7]

測量科	17名	測量士官「ベーリー」氏受持
蒸気機関科	36名	上頭機関士「サットン」 機関士「ギツシング」氏 同　「ハーヂング」氏受持
運用砲術科	63名	砲術士官「ジョンス」氏受持
造船科	13名	二等木工長「ブライアント」氏受持

この各科の生徒の配当は，生徒の不満を引き起こした。それを無視出来ず，学校側は，「今回限リ四学科ノ内銘々望ノ学科へ申付候」と，1874（明治7）年1月15日，再配当した。[8]

海軍兵学寮のイギリス式化が進み，いよいよ，「英国教師招聘ニ由リ学業初メテ実地ニ就ク」こととなった。その実地において，一番変わったことは，「教師招聘以前ハ専ラ座学ナリシカ招聘以後ハ概シテ一日四時間ノ授業中午前二時間ハ座学午後二時間ハ外業ニ充ツル事トナレリ」ことであった。[9] 座学ばかりでなく，外業も重視した結果，海軍兵学寮は，1874（明治7）年1月23日，海軍省へ，つぎのような伺いを出した。

「生徒着服従前重ニ座学ニ付損壊モ少ク候処去年十月教師ノ授業初リ候以来ハ専実地稽古ニ付運動烈シク隋テ服ノ裂ケ損シ夥シク其ノ都度縫職ヘ下ケ繕ヒ為致候テハ手数ノミナラス生徒事業ノ妨ゲニ相成不都合ニ候間自今縫職一人一日金三十五銭宛ニテ定傭申付度此段申出仕候也」[9]

さらに，もうひとつの大きな改革の一つは，リクリェーションのため，ビリヤード，クリケットボール，ボリングアレーなども，取り入れたことである。

「凡精神ヲ労スル者ヲ常ニ束縛致而己ニシテ之ヲ慰楽スル事無之候テハ必ス欝閉ノ害ヲ免レ不申或ハ竊カニ犯則不善ノ遊戯ニ溺ルヽニ至ル近頃生徒ノ状態ヲ経験仕候兎角汚行ニ流レ其儘差置候ハヽ後来醜態ヲ醸スノ幣ヲ生スルニ至ルヤモ難計ト奉存候即今更ニ寮議ヲ遂候処畢竟身体ヲ束縛致シ常ニ学業而己ヲ厳責致シ精神ヲ労セシメ他ニ欝散慰楽ノ方無之ヨリ斯ル弊害ヲ醸サントスル義ト奉推察候依テ議按仕ニ欧米各国海軍学校ニハ遊戯ノ具ヲ備エテ講究ノ余暇常ニ生徒ヲ楽シマシメ以テ労ヲ慰ムルノ法有之故ニ心意ノ方向不善ニ移ラスシテ汚行醜態ノ幣ヲ醸スニ至不申随テ学術益進歩身体愈健強相成申候但シ此ノ遊具ハ『ビリヤード』『クリケットボール』或ハ『ボーリングアレー』等ナリ此ノ儀ヲ教師『ドーグラス』ニ相謀申候処同人モ已ニ此意有之候得共其ノ入費莫大相掛リ候故今日迄黙止罷在候由申聞候テハ前文ノ通リ右ハ至急良法ト奉存候間先ツ『ビリヤード』二器急速寮内エ御相成候様致シ度尤代価ハ一器ニ付千五百円程ノ見込ニ御座候何分早々可否御指揮被下度此段申出候也

一月　兵学寮

海軍省御中」[10]

この伺いに対し，「上申ノ通但其寮定額預金ヲ以テ仕拂可候事」と指令した。

イギリス式海軍寮教育は，単に厳しいだけではない。座学だけでなく，外業も重視し，そして，勉強ばかりの生活では，生徒の精神上，よくないという理由で，放課後には，ビリヤード，クリケット，ボーリングアレー等を取り入れた。そのような中で，わが国最初の運動会と言われる『競闘遊戯』の発議がされるのである。

（三）　『競闘遊戯』の開催経緯と内容

わが国最初の運動会と言われている『競闘遊戯』の発起人はイギリス人教師キャプテン・ドグラスであり，1874（明治7）年2月，彼から，「イギリスでは Athletic Sports というものがあって種々の競技をなし，体育とレクレーションの一助と成るものであるから，之を実施されたいとの申し出があった。」[11] からだと言う。

兵学寮当局も，これには大賛成であった。しかし，なにしろ，わが国初公開のことなので，先ず，海軍省の許可を　得なければならない。しかしながら，英文のプログラムが作成されても，それを和文に直さねばならない。したがって「時の英学教官錦織精之進，三輪光五郎（慶応出身），服部章蔵の三氏及び皇漢学教官三氏協議調査の結果，アスレチック・スポーツの邦訳を競闘遊戯と決定し，各種目の名称は，直訳もおもしろくないから何とか優雅なものにしようと，苦心の末，和漢両様の名を選んだ。」[11] という。

海軍卿勝安芳の許可を受け，兵学寮は，1874（明

治7）年2月27日，さらに，次のような申し出をした。

「生徒競闘遊戯御許容ニ付テハ来十一日興業致候積ニ付楽隊御差出相成度且水路寮軍医寮並ニ『プリンクリ』生徒モ御差出有之度旨教師申出候間可然詮議ニ候ハヽ夫々へ御達相成度此段申出候也

二月二十七日　　兵学寮

海軍省御中　　」[12]

この申し出に対し，海軍省は「上申之通但其筋へ相達候事」と，3月2日に回答し，一方，海軍卿勝安芳は，3月8日に，太政大臣三條實美に，英文和訳のプログラムを添えてつぎのような届をした。

「　兵学寮等生徒競闘興業之儀御届

當省兵学寮等生徒之儀日夜勤学致候ニ付クリケット与唱候人躰之健康ヲ進メ候戯場被設度旨教師英人ダーグラス申出ニ依テ右場出来来る十一日別紙競闘標目之通興業致シ外国人来観且諸人縦覧差許候条此旨御届仕候也

明治七年三月八日　海軍卿勝安芳

太政大臣三條實美殿　　」[13]

同日，海軍省は，正院，左院，各省，開拓使，東京府などへ，つぎのような通達を出した。

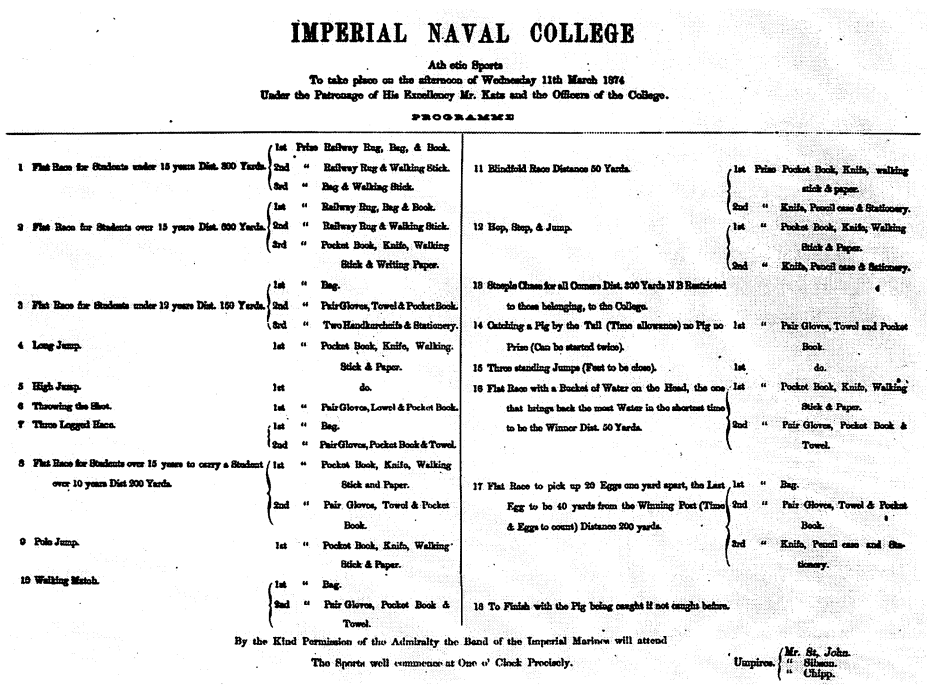
「人体ノ健康ヲ進メ候為メ当省兵学寮ヲシテ来ル十一日別紙標目之通競闘遊戯興行候ニ付外国人来観且諸人縦覧差許候条此旨為心得及通達候也」[11]

言うまでもなく，学校では，生徒に，競闘遊戯のために，練習をさせた。当時，海軍兵学校の予科の生徒であった沢鑑之亟の手記によると，其の準備は，つぎのようであったと言う。

「コーチに当ったのは英語教師のシレントジョン，ジブソン，チップ氏等を主として，之にヨウ，ハモンド氏ほか数名が手伝った。練習に参加したのは兵学寮本科生徒百二十八名，予科生徒六十二名をはじめ水路寮生徒十四名，軍医寮生徒十二名，海兵士官学校生徒十名で，主な種目は短中距離競走，走高飛，棒高飛，三段跳，走幅跳の走，跳競技　であり，別に二人三脚，背負競走，玉子採り，バケット（水桶）競走等であった。」[11]

あいにく，予定された3月11日は，「雨天ニ付延引来ル一六日興業致候条」と，3月16日に延期された。しかし，3月16日も雨天となり，「来ル廿一日興業猶本日雨天ニ候ハヽ同廿六日興業致候条」と，海軍卿は，太政大臣に届けている。[13]

1874（明治7）年3月21日は，曇天ではあった



IMPERIAL NAVAL COLLEGE

Ath etic Sports
To take place on the afternoon of Wednesday 11th March 1874
Under the Patronage of His Excellency Mr. Kats and the Officers of the College.

PROGRAMME

1 Flat Race for Students under 15 years Dist. 300 Yards.
- 1st Prize Railway Rug, Bag, & Book.
- 2nd " Railway Rug & Walking Stick.
- 3rd " Bag & Walking Stick.

2 Flat Race for Students over 15 years Dist. 600 Yards.
- 1st " Railway Rug, Bag & Book.
- 2nd " Railway Rug & Walking Stick.
- 3rd " Pocket Book, Knife, Walking Stick & Writing Paper.

3 Flat Race for Students under 12 years Dist. 150 Yards.
- 1st " Bag.
- 2nd " Pair Gloves, Towel & Pocket Book.
- 3rd " Two Handkerchiefs & Stationery.

4 Long Jump. 1st " Pocket Book, Knife, Walking. Stick & Paper.

5 High Jump. 1st do.

6 Throwing the Shot. 1st " Pair Gloves, Towel & Pocket Book.

7 Three Legged Race.
- 1st " Bag.
- 2nd " Pair Gloves, Pocket Book & Towel.

8 Flat Race for Students over 15 years to carry a Student over 10 years Dist 200 Yards.
- 1st " Pocket Book, Knife, Walking Stick and Paper.
- 2nd " Pair Gloves, Towel & Pocket Book.

9 Pole Jump. 1st " Pocket Book, Knife, Walking Stick & Paper.

10 Walking Match.
- 1st " Bag.
- 2nd " Pair Gloves, Pocket Book & Towel.

11 Blindfold Race Distance 50 Yards.
- 1st Prize Pocket Book, Knife, walking stick & paper.
- 2nd " Knife, Pencil case & Stationery.

12 Hop, Step, & Jump.
- 1st " Pocket Book, Knife, Walking Stick & Paper.
- 2nd " Knife, Pencil case & Stationery.

13 Steeple Chase for all Comers Dist. 300 Yards N B Restricted to those belonging, to the College.

14 Catching a Pig by the Tail (Time allowance) no Pig no Prize (Can be started twice). 1st " Pair Gloves, Towel and Pocket Book.

15 Three standing Jumps (Feet to be close). 1st do.

16 Flat Race with a Bucket of Water on the Head, the one that brings back the most Water in the shortest time to be the Winner Dist. 50 Yards.
- 1st " Pocket Book, Knife, Walking Stick & Paper.
- 2nd " Pair Gloves, Pocket Book & Towel.

17 Flat Race to pick up 20 Eggs one yard apart, the Last Egg to be 40 yards from the Winning Post (Time & Eggs to count) Distance 200 yards.
- 1st " Bag.
- 2nd " Pair Gloves, Towel & Pocket Book.
- 3rd " Knife, Pencil case and Stationery.

18 To Finish with the Pig being caught if not caught before.

By the Kind Permission of the Admiralty the Band of the Imperial Marines will attend

The Sports will commence at One o' Clock Precisely.

Umpires. Mr. St. John. " Silsum. " Chipp.

競　闘　遊　戯　表

競闘標目

此度勝海軍府ノ許可ヲ得テ來ル三月十一日海軍醫生徒ヲシテ海軍兵學寮構内ニ於テ九番十八般ノ競闘遊戯ヲ催セレム但シ午後第一時ヨリ興行ス其標目左ノ如シ

第一場　第一般　三雀鮓出巣もゞめのもだち
第二般　燕子擧飛つばめのとびきそひ

第二場　第三般　二秋爲群翔ゆきかおくどり
第四般　三鵜鶴亂飛あけれからひ

第三場　第五般　四文鰩閃浪とびのう筏なみきり
第六般　五大鰐跋扈ぼらはあみこに

第四場　第七般　六老鯉打磔ふるだぬきはつぶてうち
第八般　八乳猿遊獵おさちざるはかけぬけ

第五場　第九般　七蛺蝶趁花てふのいなおひ
第十般　九蜻蛉驅風とんぼのうさがへて

第六場　第十一般　十野鶴出籠ゐごろのみげづる
第十二般　十一挽馬脱韁はしやればあれうま

第七場　第十三般　十二白鷺探餌さぎはうをふみ
第十四般　十四鶴鷸捉蚌わしのいなをと

第八場　第十五般　十五兎躍月うさぎはつきみ
第十六般　十七猴獵倫桃さるはもゝとり

第九場　第十七般　十六須浦汲潮をはのしほくみ
第十八般　十八中原逐鹿もろこしはとらおふ

第一般　十二歩以下ノ生徒ヲシテ百五十「ヤード」ノ距離ヲ疾駆セレム

景物　一番　第四號
二番　第六號
三番　第九號

第二般　十五歩以下ノ生徒ヲシテ三百「ヤード」ノ距離ヲ疾駆セレム

景物　一番　第一號
二番　第二號
三番　第三號

第三般　十六歩以上ノ生徒ヲシテ六百「ヤード」ノ距離ヲ疾駆セレム

景物　一番　第一號
二番　第二號
三番　第五號

第四般　看客ヲシテ三百「ヤード」ノ距離ヲ疾駆セシム且ツ舊般ノ遊戯ヲ觀覽セレム但メ本案當輪ニ在ル者ノ外ヲ許サズ

景物　一番「臨時ニ出スベキカ」
二番「故ニ預定セズ」

第五般　距離ヲ限ラズシテ前ニ飛躍セシ少シモ逆ヲ脇想スルヲ務メレム

景物　一番　第五號

第六般　高熱ヲ定メズシテ上ニ飛躍セシ少シモ高ク地ヲ離ルヽヲ務メレム

景物　一番　第五號

第七般　距離ヲ定メズシテ毬ヲ投擲セシ少シモ遠ク地ヲ離スルヲ務メレム

景物　一番　第六號

第八般　十五歩以上ノ生徒ヲシテ十歩以上ノ生徒ヲ背ニ負ヒ二百「ヤード」ノ距離ヲ疾駆セレム

景物　一番　第五號
二番　第六號

第九般　二人ヲ並ベテ左者ノ右脚ト右者ノ左脚トヲ繋ギシ二脚二脚ニシテ疾駆セレム

景物　一番　第四號
二番　第七號

第十般　竿ヲ以テ地ヲ撥シ飛騰飛躍シテ以テ疾駆セレム

景物　一番　第四號
二番　第七號

第十一般　脚ヲ伸シ少シモ其他ノ器ルヲナク然倉ヲ以テ急歩セレム

景物　一番　第七號

第十二般　布巾ヲ以テ兩明ヲ遮蔽シ五十「ヤード」ノ距離ヲ時々疾駆セレム

景物　一番　第五號
二番　第八號

第十三般　或ハ一脚ヲ巻シ或ハ大踏歩シ或ハ飛躍シ歩々置互シテ以テ疾駆セレム

景物　一番　第五號
二番　第八號

第十四般　家ヲ放チ其兎躍ヲ追ヒ屋ヲ捉シテ之ヲ飛ルヲ務メレム但シ其家ヲ放ツハ一回ニシテ之ヲ捉ルハ時間ヲ限ル「トス」

景物　一番　第六號

第十五般　躍ルヨ三躍シテ以テ歩ニ代ヘ少シモ疾ク前進スルヲ務メレム

景物　一番　第六號

第十六般　鶏子二十顆ヲ撒シ「ヤード」毎ニ置キ之ヲ拾收シテ疾駆セレム但シ其距離ハ二百「ヤード」ニシテ第二十顆ノ鶏子ヨリ標柱ニ至ルノ間ヲ四十「ヤード」トス

景物　一番　第四號
二番　第六號
三番　第八號

第十七般　眼上ニ水袖ヲ纏キ疾駆セレム但シ五十「ヤード」ノ距離ニ達シテ水ヲ盛ル器ルヲ少ノ且遠ニ運來ルヲ務メレム

景物　一番　第五號

第十八般　兎ニ家ヲ放チレドニ若シ雖人ノ之ヲ捉獲スル者モ有ラズンバ再ビ之ヲ放フヲ以テ一回ニ以テ觀盧ノ結局トス

右等遊戯ノ興行スルニ當テハ海軍樂隊ヲ出レ奏樂シテ以テ觀場ノ色ヲ添フ而シテ觀劇ノ行司ハ英國中等士官レントゼン兵下等士官レブソン兵「チャプ」兵等ノ三子ニ屬ス

景物表

第一號　提燈書　懐刀　行燈　一張
第二號　屈柄杖　行燈　一枚
第三號　提燈書　屈柄杖　一本
第四號　提燈書　一具
第五號　懐刀　書簡箱　屈柄杖　一枚
第六號　懐刀　手拭　面帕　一対
第七號　懐刀　小手拭　面帕　一対
第八號　袋刀　書簡箱　一枚
第九號　書簡箱　手帕　二東

皇紀二千五百二十四年三月一日

海軍兵學寮

けれども，午後1時から兵学寮構内馬場で，『競走遊戯』が挙行された。

「当日は曇天であったが，観覧者は午前十一時から入門を許され，かなり多数が集まった。競技の順序は，別掲プログラム（競闘遊戯表）の通りで，別に馬場の中央に競技種目を示した建札が立てられた。スタートは小銃一発の合図によるもので，海軍楽隊が奏楽して会場に興を添え併せて参加者を鼓舞した。」[11]

このような雰囲気の中で「競走遊戯」が開始されたのであるが，英文および和文のプログラムは，前掲の通りである。

先ず，英文と和文のプログラムを比較して，言えることは，つぎのことである。[14]

和文プログラム番号	英文プログラム番号	
第一般	3	③
〃二〃	1	①
〃三〃	2	②
〃四〃	13	⑬
〃五〃	4	④
〃六〃	5	⑤
〃七〃	6	⑥
〃八〃	8	⑧
〃九〃	7	⑦
〃十〃	9	⑨
〃十一〃	10	⑩
〃十二〃	11	⑪
〃十三〃	12	⑫
〃十四〃	14	⑭
〃十五〃	15	⑮
〃十六〃	17	⑰
〃十七〃	16	⑯
〃十八〃	18	⑱

（筆者注：右端の番号は『海軍兵学校沿革』掲載のプログラム番号である。）

一つは，和文プログラムは，英文プログラムの順序通りになっていないことである。例えば，英文プログラムでは，13番目にあったのを，和文プログラムでは，4番目にしていることである。

二つは，和文プログラムでは，競闘と遊戯とのバランスを考えていることである。

三つは，小さいことであるかも知れないが，和文プログラムでは，最初の三つを年令順にしていることである。

太政大臣に提出された英文と和訳のプログラムを比較してみると，以上のことが指摘できるが，しばしば引用される海軍兵学校編『海軍兵学校沿革』の「遊戯番附」は，英文プログラムを，この本を編集する時，和訳したものであると推察される。

当時予科に在学し，この催しに参加した生徒の手記によると，前掲の和訳プログラムに添って，『競闘遊戯』は，実施されたのである。

つづいて，『競闘遊戯表』の内容を検討してみよう。その特徴は，つぎの通りである。一つは，種目は18種類（筆者注：第14般と第18般とは重複しているので，実質的には，17種と見なすべきであろう。）で，それぞれの種目で競闘させ，賞品を出していることである。

二つは，種目として，走る，投げる，跳ぶの種目の他，余興的なものも取り入れていることである。

それぞれの種目が，当時の日本人にとって，初めて見るものであり，珍しいものであった。とりわけ，二人三脚，棒高飛，三段跳，肩車競争，水桶競争等は，観客の目を引いたと言われる。そして，プログラムの最後を飾った豚追い競争は，観客を爆笑のうずに巻き込み，大喝采を得たという。

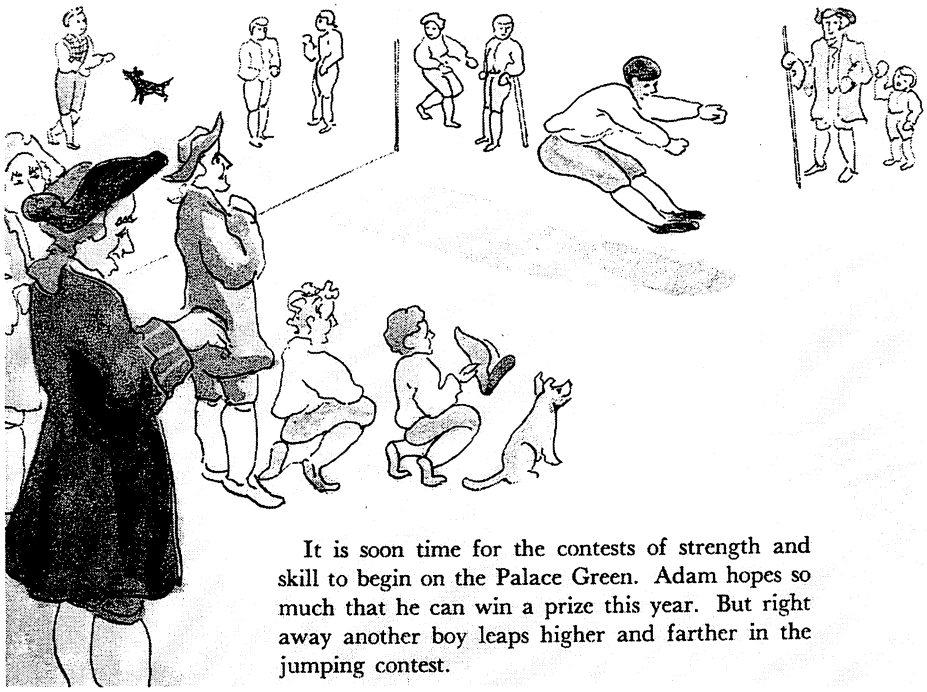
「競闘標目の最終をかざる豚追は，子豚の身体全体にヘットを塗りつけて場内に放ち，予科生徒のみで之を捉えようとするのである。生徒は馬場の内を前後左右に追まわし，折角尾を引張ったり，足を捉えても，塗ってあるヘットの為ツルツルと脱け出され，豚はビービーなきながら四方八方へ逃げまわるので，容易に捕えることが出来ない。転がったり，滑ったりして，しまいには生徒も疲れ，豚もヘトヘトとなった時，一生徒が勇奮一番とうとう豚を抱き止めたので，この競戯も終り告げることとなった。この最後の豚追は観衆一同を爆笑に陥れ大喝采を博したのである。終了は午後四時四十分であった。」[15]

三時間四十分間行なわれたわが国最初の運動会と言われる『競闘遊戯』のその他の特徴として，つぎのことを挙げることが出来る。

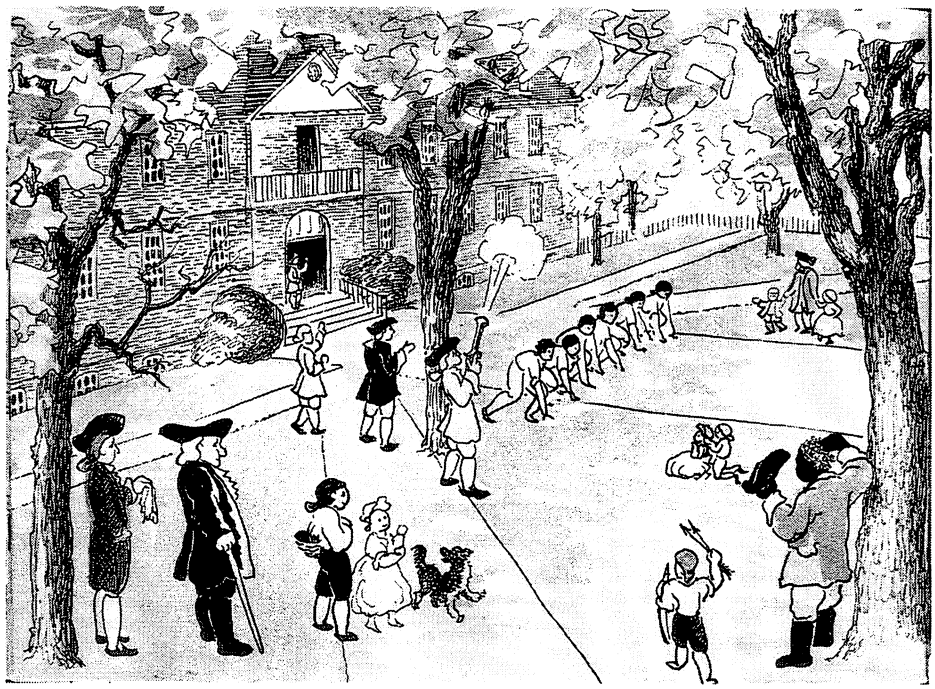
一つは，海軍兵学寮の『競闘遊戯』と言われるけれども，参加者は，海軍兵学寮の生徒ばかりでなく，水路寮，軍医寮，海兵士官学校などの生徒および，海軍兵学寮関係者もいたことである。

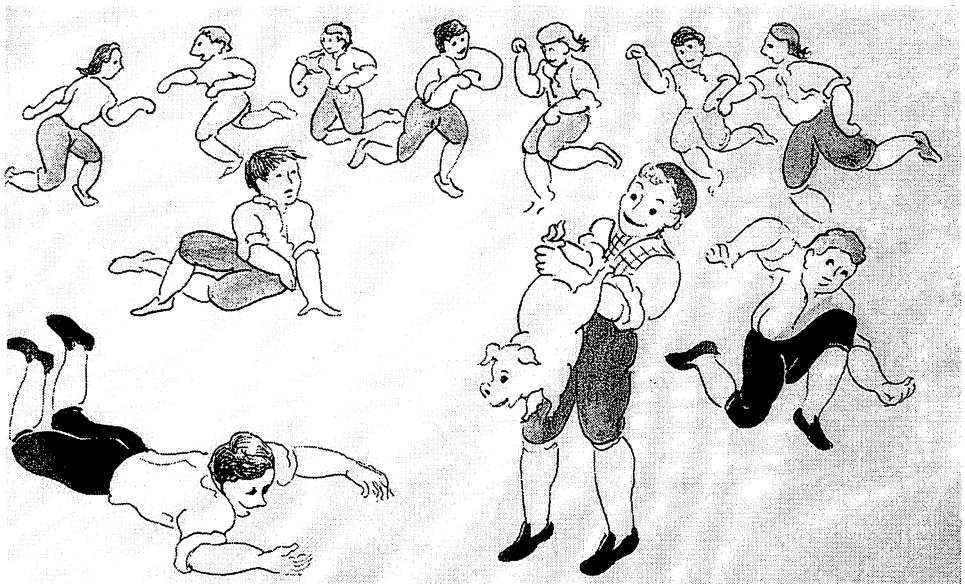
二つは，『競闘遊戯』の内容が，当時のカリキュラムの内容にないものであることである。すなわち，学校教育の延長としてのものではないということである。

ドグラスによると，「イギリスでは，Athletic Sports というものがあって種々の競技をなし，体育とレクリエーションの一助となす」[11]と言うことである。それが，ドグラスによって，海軍兵

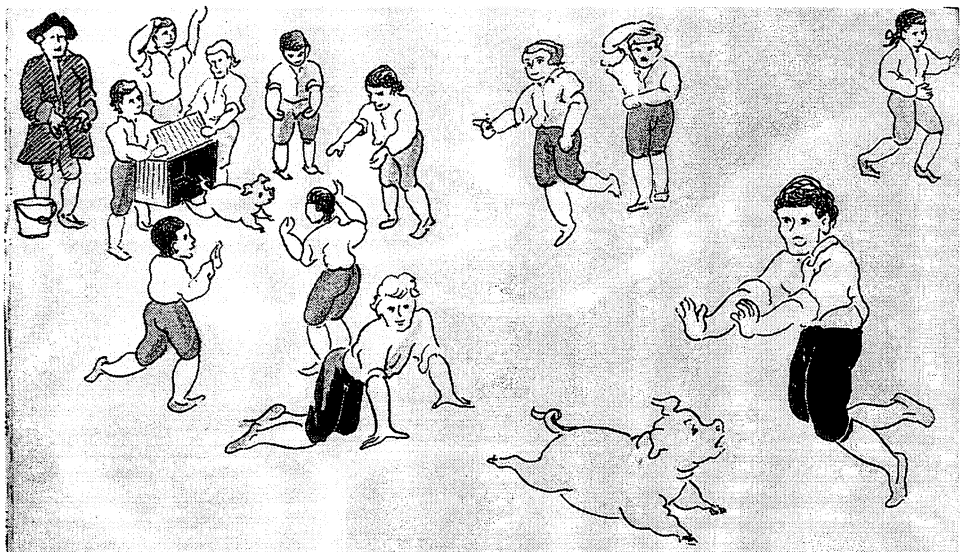


It is soon time for the contests of strength and skill to begin on the Palace Green. Adam hopes so much that he can win a prize this year. But right away another boy leaps higher and farther in the jumping contest.





Now someone's caught the pig. No, it squirms and runs away. But Adam grabs it by the tail. He has won a prize at last. The pig is his to keep!



When Adam starts home for dinner he sees a great crowd gathering on the Market Square. It is the last contest of the day—the race to catch a well-greased pig.

Adam joins the fun. Up and down, round and round he goes.

学寮に紹介された。その Athletic Sports は，2体育とレクリエーションの一助となったものであろう。小生は，"St. George's Day in Williamsburg"[16] という本をもっている。それは，イギリス軍人の宗護聖人と言われる St. George の祝祭日の一日を書いた絵本である。Williamsburg は，ヴァジニア州の南東部にあり，1632年にイギリス人が移入し，開拓し，1699年から1780年まで，植民地の州都であった。イギリスの影響が強く，歴史的な町である。4月23日に行なわれるウイリアムバーグでの St. George's Day の一日を記した本は，わずか31頁のもので，その内容を要約すると，つぎの　通りである。

(1)	St. George's Day の意義	1～2頁
(2)	家畜市場	3～4頁
(3)	走巾跳び	5頁
(4)	レスリング	6頁
(5)	棒術	7～8頁
(6)	徒歩競争	9～12頁
(7)	見世物小屋	13～14頁
(8)	重石持久力競争	15頁
(9)	馬乗り	16頁
(10)	競馬場へ急ぐ人々	17～18頁
(11)	競馬	19～20頁
(12)	サーカス	21～22頁
(13)	豚追い競争	23～24頁
(14)	夕食	25～26頁
(15)	ダンス	27～28頁
(16)	花火	29～30頁
(17)	帰宅	31頁

以上のような風景が描かれているが，注目すべきことは，この祭りで，走巾跳び，徒歩競走，豚追い競争が行なわれていることである。そして，それぞれに賞が与えられていることである。これらから判断すると，イギリスでは，走巾跳び，徒歩競争，豚追い競争などは，当時，一般に行なわれていたものと思われる。

(四)　おわりに

海軍兵学寮の教育が，イギリス式に改革される中で，ドグラスの発案で『競闘遊戯』が開催され，その性格を，英文・和文のプログラム，そして，イギリスで重要な祝祭日である St.George's Day の催しを通じて検討した。その検討を通して，つぎのことが確認される。

一つは，『競闘遊戯』は，イギリス人教師ドグラスの発案であること。

二つは，その内容は，イギリスでは，祭りなどでも行なわれていた一般競技であったこと。

三つは，英文のプログラムと和文のプログラムの順序が代わっていること。

四つは，プログラムの内容は，走，跳，投などとともに，余興的なものも，かなり多くとり入れていること。

五つは，その内容は，当時の海軍兵学寮の教育内容とかかわりが薄かったこと。

六つは，海軍兵学寮の主催であったが，『競闘遊戯』への参加者は，海軍水路寮，海軍軍医寮，海軍士官学校および関係者，海軍軍楽隊の生徒もあったこと。

以上のことが確認されるが，これらのことから，ドグラスは，体育の普及というより，生徒のリクリエーションという意味で，海軍兵学寮主催の『競闘遊戯』を開催したと思ふべきであろう。そして，後に，明治20年代から全国の学校で運動会として普及するということは，ドグラスは夢にだに思わなかったであろう。また，『競闘遊戯』が，わが国の運動会の起源と言われるようになるとも，彼は想像だにしなかったであろう。

注

(1)　佐藤秀夫著　『学校ことはじめ事典』　小学館　1987年11月1日　56頁。
(2)　鎌田芳朗著　『海軍兵学校物語』　原書房　昭和54年8月10日　1～5頁
(3)　同上書　16頁
(4)　同上書　25～26頁
(5)　篠原宏著　『日本海軍お雇外人』　中央公論社　昭和63年9月25日　163～169頁
(6)　海軍兵学校編　『海軍兵学校沿革』　原書房　昭和54年1月20日（復刻原本大正八年刊）　140～148頁
(7)　前掲書　『海軍兵学校物語』　37頁
(8)　前掲書　『海軍兵学校沿革』　160頁

(9) 同上書 164頁
(10) 同上書 164～165頁
(11) 野口岩三郎 「本邦最初の遊戯会」 『新体育』 第20巻第6号 昭和25年6月1日 36頁
(12) 前掲書 『海軍兵学校沿革』 166頁
(13) 「兵学寮等生徒競闘興行之儀御届」 『公文録 海軍省之部 全』 明治7年3月
(14) 英文と和文のプログラムは，注 (13) の資料の中にある。
(15) 前掲論文「本邦最初の競戯会」 38頁
(16) Edith Thacher Hurd and Clemert Hurd,St.George's Day in Williamsburg, Doubleday and Company,inc.,Ganden City,New York